

核兵器・核実験モニター

NUCLEAR WEAPON & NUCLEAR TEST MONITOR

●発行所 P C D S (太平洋軍備撤廃運動)／平和資料協同組合(準)
〒223 横浜市港北区箕輪町3-3-1
TEL: 045-563-5101 FAX: 045-563-9907
●編集責任者 梅林宏道
●郵便振替 口座番号: 00280-0-38075 加入者名: 平和資料協同組合

毎月2回1日、
15日に発行。

08 95/11/1

¥200

村山首相、「核の傘は当然」

国会答弁すればするほど悪くなる政府の核政策

開会中の国会で、村山首相は日本の核政策について、だめ押しとなるような後退した答弁をした。「毒を食らわば皿まで」と言うのだろうか。核政策が、ここまで没論理に墮ちてしまった以上、日本政府はフランスや中国に核実験中止を説得する立場をまったく失ってしまった。この落胆を首相に直言した側近はいるのだろうか。

10月17日の参議院予算委員会で、島袋宗康(二院クラブ)議員の質問に対して、村山首相は「現実に核を持っている国がある限り、核を持たない国が、持っている国の抑止力に頼ることは当然である」と述べた。島袋議員が「アメリカの核の傘のもとにありながら、フランスや中国の核実験に反対するのでは説得力に欠ける」と質したのに対して答えたものである。速記録のその部分を右に掲載する。

首相に先だって河野外務大臣が答弁に立ったが、外務大臣はそこまでは言わなかった。「核抑止力を踏まえて国の安全を考えなければならない」と回答するに留まった。村山首相の方が正直なのかもしれないが、余りにもひどい答弁であり、この首相の下では日本が核兵器問題で何一つ前進できないことを感じさせた。

なぜ「抑止力の抑えをしてもらうことが当然」と考えるのか。首相の発言をとらえて、予算委員会ではその点をもっと掘り下げて議論して欲しかった。105カ国に及ぶ最大の国家群である非同盟諸国は、核兵器を持たないが、核兵器国による核抑止力を求めていない。首相の言う「当然」などという暴論は許されない。核の傘を求める国の方がむしろ少数派なのである。

一挙掲載! 3~8ページ 9・3タヒチ国際議員会議会議録

非同盟諸国は、核兵器国との核抑止力にすがるのではなく、「核兵器保有国は、非保有国を核兵器で攻撃しない」という、いわゆる「消極的安全保障

「参議院予算委員会総括質疑速報」抜粋

1995.10.17

●島袋宗康(二院クラブ) (略)政府は、中国やフランスに対して核実験中止の申し入れをされたり、国連での実験禁止の決議に向けた努力をされておりますけれども、どうもいま一つ説得力に欠けるように思います。フランスも中国も、日本はアメリカの核の傘に守られているのではないかと、こういうふうな反応が返ってくるわけでございます。

そこで、唯一の被爆国である日本が世界に向かって核実験の禁止、核軍縮とその廃絶を説得力を持って訴えるには米国の核の傘を返上することであると私は思います。(略)

私は、現在の世界情勢はそれを可能にすると考えますけれども、総理のお考えを示していただきたいと思います。(略)

●村山富市(総理大臣) (略)核実験

の問題について、アメリカの核の抑止力の中に入ってるものが核実験をすることは矛盾ではないか、こういう意見ですね。これは現実に核を保有している国がある限りにおいては、やっぱり核を持たない国が核を持っている国から一応条約を前提にして抑止力の抑えをしてもらうということは当然だと思いますけれども、しかし、だからといって核実験の禁止なり、あるいは究極的に核を廃絶するということを叫ぶことが矛盾だというふうには私は思わないんですよ。それは、やっぱり被爆国として積極的に核実験の禁止を訴えて核の廃絶を求めていくというのは、日本の国としては当然のことではないかというふうに考えておりますから、矛盾をしているとは考えておりません。

(NSA)」を求めていた。この政策の方が「核実験禁止」を訴える立場と矛盾がないことは、第6号に書いたので繰り返さない。

「核兵器を持つ国がある限り、核抑止力に頼るのは当然」という村山首相の論理に立つならば、「(国民に)頼られている抑止力を維持するために核実験を必要としている」とフランスや中国が述べることに、まったく反論できないことは、誰の目にも明らかである。(梅林宏道)

太平洋海兵隊の「核能力」解体 米「情報公開法」で確認

太平洋海兵隊が、1992年11月6日に核兵器／化学兵器能力を失っていたことが、「平和資料協同組合」が米国の情報公開法で入手した資料により明らかになった。

入手した資料は、太平洋海兵隊(沖縄、本土の米海兵隊もここに所属する)が海兵隊総司令官に提出した1992年の年次報告で、その年の太平洋海兵隊の組織状況や主な作戦行動、行事などをまとめたものである。

ブッシュ大統領は、1991年9月、すべての地上配備の戦術核の廃棄、平時における軍艦や海軍・海兵隊の航空機からの核爆弾、核巡航ミサイルの撤去(一部を廃棄、一部を中央管理)の方針を明らかにした。その後、92年7月、大統領はこれら戦術核の撤去が完了したことを声明した。

しかし、有事に核兵器が再搭載される可能性が残っていた。ところが、94年9月に発表された「ニュークリア・ポスチャー・レビュー」では、潜水艦搭載の巡航ミサイル・トマホーク以外は、再搭載の可能性もないことが明らかになった。

このような国防省の方針が、本当に実行されているかどうか、疑問視する見方が根強く存在している。今回の

「NGO核廃絶会議」 ハーグで運動戦略会議 (11・5)

本誌第1号に紹介したように、今年の4月、核不拡散条約(NPT)延長会議のときに「NGO核廃絶会議」が発足した。その「NGO会議」が、11月5日、オランダのハーグではじめての運動戦略を話し合う会議を開く。会議

は、他の国際平和運動のNGOと共に開催される。

ハーグにある国際司法裁判所においては、10月30日～11月15日に、「核兵器の使用および使用の威嚇」の違法性について「勧告的意見」を求める裁判の口頭陳述が行われる。法廷は公開であるので、多くのNGOがこの歴史的な法廷に参加する。その機会を利用して、NGOがハーグで会議を開くことになった。

戦略会議では、IPPNW(反核医師の会)、IPB(国際平和ピューロー)、INES(科学技術者ネットワーク)、NGO核廃絶会議、核廃絶世界運動などの団体とパグウォッシュ会議のジョンセフ・ロートプラットから発題を受け、①核廃絶運動の内容、②運動の組織と連絡体制、が話し合われる。

P CDSは、今回は代表を送れないが、日本からもいくつかの団体が参加する予定である。

なお、11月4日には、NGOの「世界法廷プロジェクト・セミナー」も開催される。日本政府の口頭陳述は11月7日に行われる。各国政府に割り当てられた陳述の時間は90分であり、この時間の中で、日本からは政府代表の他に、広島市長、長崎市長の証言も行われる。

国際司法裁判所の傍聴には、直接下記に申し込めばよい。

International Court of Justice:
Peace Palace, 2517 KJ The Hague,
ATTN: Ms. El-Erian, Information
Officer, or Mr. Witteveen, Secretary of
the Court
TEL: 31-70-302-2323
FAX: 31-70-364-9928

核実験の図説が 欲しい方へ

中学や高校の先生や主婦の集いの主催者から、しばしば「核実験の様子やムルロアの環境に与える影響などを図解した資料はないか」と質問を受けました。

本誌も協力して、フルカラーの図説が次の雑誌に掲載されているので、紹介しておく。入手が困難な場合、連絡いただければ、ご相談に応じます。

- ◆科学雑誌「クォーク」11月号(講談社)34ページ
- ◆週刊誌「日経ビジネス」10月9日号(日経BP社)72ページ

じっとしていられない人への掲示板 「ストップ核実験」FAX情報ネット

最新の行動情報・呼びかけが自宅や会社のFAXで24時間取り出せます。情報料は無料。通常の電話料金のみの負担。

- ①FAXの受話器をあげる。
- ②市民活動FAX情報ネット(03-3813-8180)にダイヤル。
- ③音声案内にしたがって、200#を押す。

④送信メッセージの後、ピーという音がしたら、FAXのスタートボタンを押す。

●音声情報を聞く場合は、③のところで201#を押すと録音された情報が流れます。

●この件についての問い合わせは
電話: 03-3813-6490、FAX: 03-5684-5870
担当: 吉永

「核兵器のない世界をめざす議員連盟」 結成会議・会議録

1995年9月3日 11:00~13:00
タヒチ島ファアア市近郊ヌーロア・ビーチ

フランスのムルロア環礁での核実験再開に反対するために、9月2~3日タヒチで現地抗議集会が開催された。オーストラリアのニュー・サウス・ウェルズ州上院議員フランカ・アレナなどの働きかけで、このとき世界各地から国会議員や自治体議員が現地入りした。本誌第5号に紹介したように、日本からも22人(23人の代表団のうち1人は現地に行けなかった)の国会議員団が参加した。9月3日、はじめての国際反核議員会議が開催され、日本の5国会議員が参加した(社会党から今村修、横光克彦、齊藤勁の3氏、共産党から笠井亮氏、二院クラブから島袋宗康氏)。

この会議で「核兵器のない世界をめざす議員連盟」が結成された。

議員連盟の議長にはオスカー・テマル仏領ポリネシア地方議員(ポリネシア解放戦線党首、ファアア市長でもある)、事務局長にはブルース・チャールズ・オーストラリア連邦上院議員が選ばれた。日本から副議長を出してくれと要請されたが、受けことができなかつた。議員連盟の目的も成文化され同意された。

貴重な会議の全記録をここに掲載する。島袋議員に同行した伊波洋一さんがビデオ録画から起こしたものである。

写真:テーブル正面右の花輪をかけた女性がフランカ・アレナ(豪、州議会議員)さん、その右がオスカー・テマル(ファアア市長)さん、その右がアメリカ領サモア代表。



■オスカー・テマル市長 皆さん、遅れて申し訳ありません。今朝早く、昨日タヒチに送還されてきたグリンピースのメンバーに起こされまして、私と同じ状況で送還されてきたものですから、かれらのために宿泊所や食事を準備したりしていただけました。

本日は、二つの議題を話し合うことになります。最初の議題は、世界各国から派遣されてきた私達の国際的連帯の可能性についてです。オーストラリア、ニュージーランド、日本、アイルランド、フィリピン、サモア、米国、イタリア、ブラジル、ルクセンブルク、オーストラリア、スウェーデン、(デンマークの声)、ノールウェーの多くの国々の国際連帯が、第一の議題です。

二番目の議題は、私達のこの国の実際の政治的状況についてあります。

さて、会議を開始する前に、どうか私達の牧師に数分間の会議のための祈りを捧げさせて下さい。この場所はヌーロアといいます。この土地は占領され続けられており、フランス政府はここにホテルを建設しようと計画しました。

ここは、私達の祖先の墓所なのです。私

達の先祖が最初にフランス軍とここで戦い、先祖の戦士とフランス軍兵士の骨が埋まっているのです。過去のことですが、この土地の歴史です。それでは、牧師が私達の会議を祝福して祈りを捧げます。

■牧師(タヒチ語で祈り、通訳が英語に直した) 本日ここで会議が開催されることを感謝いたします。本日の会議を祝福されることを願います。本日は、ここに各地からゲストや報道機関の皆さん、ムルロアで起こうとしていることに対して戦っている私達を助けるために来られました。

私達は、あなたが私達とともに在り、また残された家族を祝福し、同時に特に本日の会議を準備したヌーロア協議会を祝福、

主よ、今日の太陽の光のように私達の心を照らして下さい。あなたの息子が私達とともにあり、私達を祝福してくれることを願い祈ります。

アーメン。

最初に、主の御名により心から歓迎します。オーストラリア、ニュージーランド、ノルウェー、スウェーデン、イタリア、ドイツ、ルクセンブルク、デンマーク、オランダ、(英國の声)英國、アイルランド、オース

トラリア、この地に来られたことに感謝します。同時に、この國の大統領オスカー・マヌタイ・テマルに感謝します(拍手)。彼を通して、本日の会議を開催できました。また、平和行進がタヒチで開催できたことも、すべて彼のおかげです。

もちろん、ご承知のように核実験に反対することもそうです。

この土地について、しばらく話をさせて下さい。

1982年の7月22日に、フランス政府はこの場所にホテルを建設する決定をしました。そこで私達は、ヌーロア協議会を結成し、ホテル建設阻止の活動をこれまで3年間継続しています。

私達は、タヒチのすべての政党にこのプロジェクトを阻止するための協議会に参加するよう呼びかけましたが、わずかに参加しただけで残りは参加していません。オスカー・テマルが率いる民主独立党が支援をして阻止行動を継続しています。

ホテル建設のため、ここにある椰子や大きな木々を切り倒そうとしたとき、私達は、人々とともに体を木々に縛りつけて阻止しました。

<p>右のほうにマラエが見えます。ここは昔、テイ・タトゥと呼ばれていたマラエ(祭祀場)でした。ここは、先祖が埋められたことをマウイの人々が思い出すために建てられたものです。フランスは戦争を仕掛けたマラエを接収しました。かつて、ここでフェイピの戦いと呼ばれているフランス軍との戦いが行なわれました。そして、今日皆さんが見ているとおり、この先祖の子孫達がかつて戦場だった場所を売りに出したのです。この土地がこのまま保存されて、将来もプロジェクトが実現しないように皆さんが私達を支援していただくようお願いします。</p>	<p>私達がこのプロジェクトに反対する大きな理由の一つは、大勢の地元の人々や訪問者がここを訪れて、水浴びをしたり休息をしたりしています。パペーテから来られた皆さんは、ここまでずっとコンクリートの壁が繞いていたことに気付いたと思います。これらの地域で海に出るためには許可が必要ですが、ここでは誰もが自由に海に出て水浴びができます。つまり、私達は自然の恵みをここで享受できるのです。私達が自然を守っていると言うことはできません。むしろ自然が私達を守ってくれているのです。</p>	<p>右のほうにマラエが見えます。ここは昔、テイ・タトゥと呼ばれていたマラエ(祭祀場)でした。ここは、先祖が埋められたことをマウイの人々が思い出すために建てられたものです。フランスは戦争を仕掛けたマラエを接収しました。かつて、ここでフェイピの戦いと呼ばれているフランス軍との戦いが行なわれました。そして、今日皆さんが見ているとおり、この先祖の子孫達がかつて戦場だった場所を売りに出したのです。この土地がこのまま保存されて、将来もプロジェクトが実現しないように皆さんが私達を支援していただくようお願いします。</p>
<p>私達がこのプロジェクトに反対する大きな理由の一つは、大勢の地元の人々や訪問者がここを訪れて、水浴びをしたり休息をしたりしています。パペーテから来られた皆さんは、ここまでずっとコンクリートの壁が繞いていたことに気付いたと思います。これらの地域で海に出るためには許可が必要ですが、ここでは誰もが自由に海に出て水浴びができます。つまり、私達は自然の恵みをここで享受できるのです。私達が自然を守っていると言うことはできません。むしろ自然が私達を守ってくれているのです。</p>	<p>オーストラリアがここに集まつたのは二つの理由があります。第一の理由は核実験に反対することです。第二の理由は連帯です。あなたが私達の隣人であることを、私達が一緒に集うことで人々に知らせたかったのです。</p>	<p>私は、なぜ他の国際機関が必要なのかを質問したい。日本は原子力発電に関わっているために、国際非核地帯事務局に関わっています。</p>
<p>ですから、皆さんにこの場所のことを知ってもらいたいのです。</p>	<p>以上で、テマル市長に引き継ぎます。</p> <p>■オスカー・テマル もうしばらくでフランスからの女性議員が見える予定ですが、第一の議題を開始したいと思います。なにか、他にありますか。</p>	<p>私の信念として提案したいのは、私は核産業に反対するということです。核実験は核産業の一つの延長であるということです。私は、有害な物質の使用に反対します。それは、核実験だけの狭い問題ではありません。核実験のために国際組織を作り、例えばフィリピンの原子力発電建設問題のために違う国際組織をつくるべきではありません。私は、基本的に、原子力発電も原子力産業のどちらにも反対です。私がここに参加した理由もそれであり、核実験はその延長であるからなのです。私が提案したいのは、国際非核地帯事務局を広げて結合することです。</p>
<p>■オスカー・テマル もうしばらくでフランスからの女性議員が見える予定ですが、第一の議題を開始したいと思います。なにか、他にありますか。</p>	<p>■(アメリカ)(男性、米領サモア) 米国の代表としてこの聖なるヌーラアの地に敬意を表します。1280年頃にタイアという身分の高い聖職者がサモアから来て、ここにナウイアに住みました。そして、マラエを造りました。タイアはその後ラロトンガ島にも行きました。多くのサモア人がタヒチとラロトンガに移住してきました。それゆえに、私は議長ならびにタヒチの人々に多くの敬意を表します。</p>	<p>■オスカー・テマル 次にマイクをムルロアにポートで出発するイタリアから参加者に渡させて下さい。</p>
<p>■(アメリカ)(男性、米領サモア) 米国の代表としてこの聖なるヌーラアの地に敬意を表します。1280年頃にタイアという身分の高い聖職者がサモアから来て、ここにナウイアに住みました。そして、マラエを造りました。タイアはその後ラロトンガ島にも行きました。多くのサモア人がタヒチとラロトンガに移住してきました。それゆえに、私は議長ならびにタヒチの人々に多くの敬意を表します。</p>	<p>■(アメリカ)(男性、米領サモア) 米国の代表としてこの聖なるヌーラアの地に敬意を表します。1280年頃にタイアという身分の高い聖職者がサモアから来て、ここにナウイアに住みました。そして、マラエを造りました。タイアはその後ラロトンガ島にも行きました。多くのサモア人がタヒチとラロトンガに移住してきました。それゆえに、私は議長ならびにタヒチの人々に多くの敬意を表します。</p>	<p>■(イタリア) フランス語のほうがいいのですが、ここでは皆が理解できる英語で話したいと思います。私がここにいるのは、オーストラリアの友人が呼びかけ文を送ってくれたからです。それで、今日までには何の準備もしていません。私達は2万キロメートル離れたところからやって参りました。私達は、ここに一つの大きな国際組織を作るために居るわけですが、ボートに乗るので終わりますが、私が所属する緑の党だけでなく、私達のイタリア議会では、先月投票で核実験の開始に反対する声明を決議しました。</p>
<p>■(アメリカ)(男性、米領サモア) 米国の代表としてこの聖なるヌーラアの地に敬意を表します。1280年頃にタイアという身分の高い聖職者がサモアから来て、ここにナウイアに住みました。そして、マラエを造りました。タイアはその後ラロトンガ島にも行きました。多くのサモア人がタヒチとラロトンガに移住してきました。それゆえに、私は議長ならびにタヒチの人々に多くの敬意を表します。</p>	<p>■(アメリカ)(男性、米領サモア) 米国の代表としてこの聖なるヌーラアの地に敬意を表します。1280年頃にタイアという身分の高い聖職者がサモアから来て、ここにナウイアに住みました。そして、マラエを造りました。タイアはその後ラロトンガ島にも行きました。多くのサモア人がタヒチとラロトンガに移住してきました。それゆえに、私は議長ならびにタヒチの人々に多くの敬意を表します。</p>	<p>決議は、イタリア政府が友好関係にあるフランス政府に何らかの意思表示をすべきであるというものです。なぜなら全ヨーロッパがこの事について激昂しており、共に何らかの行動をしなければなりません。私達は、感情的、理論的に互いに争うことなく共通の方向に向かっていかなければなりません。もう私は行かなければなりませんが、そのように進行することを希望します。(拍手)</p>
<p>■(アメリカ)(男性、米領サモア) 米国の代表としてこの聖なるヌーラアの地に敬意を表します。1280年頃にタイアという身分の高い聖職者がサモアから来て、ここにナウイアに住みました。そして、マラエを造りました。タイアはその後ラロトンガ島にも行きました。多くのサモア人がタヒチとラロトンガに移住してきました。それゆえに、私は議長ならびにタヒチの人々に多くの敬意を表します。</p>	<p>■(アメリカ)(男性、米領サモア) 米国の代表としてこの聖なるヌーラアの地に敬意を表します。1280年頃にタイアという身分の高い聖職者がサモアから来て、ここにナウイアに住みました。そして、マラエを造りました。タイアはその後ラロトンガ島にも行きました。多くのサモア人がタヒチとラロトンガに移住してきました。それゆえに、私は議長ならびにタヒチの人々に多くの敬意を表します。</p>	<p>■オスカー・テマル それでは各参加者から3、4分のスピーチを受けていきます。</p>
<p>■(アメリカ)(男性、米領サモア) 提案する前にわが国で討議したことです</p>	<p>■(アメリカ)(男性、米領サモア) 提案する前にわが国で討議したことです</p>	<p>■クワイ・ハーディング(オーストラリア)</p>

<p>ア) 二つの重要なことについて話します。一つは、簡単に言えばなぜ私達がここに集まっているのかということですが、いかにしてムルロア環礁で行なわれようとしている核実験を止めるかということです。そのため、他の多くの問題に関連させないような別途の機関を設置することが必要です。</p> <p>さらに、特にこの地域の先住民とフランス政府の間には問題があります。それでフランス代表者の議長選出の提案は、地元にとって微妙な問題を生み出すおそれがあるとおもいます。それで、この地域の経済大国でもある日本の代表を暫定的に議長にするよう提案します。それは、とても簡単で実際的であり、すぐにできることだからです。さらに、組織の副議長を得ることができます。残りの時間を他のことに当てができるでしょう。</p> <p>■オスカー・テマル どうもありがとうございます。(拍手) 日本の代表団にマイクを渡す前に、今朝ラジオ・オーストラリアが報じたところによると、フランス政府はクリントン米大統領へのメッセージで、敬意を表しながら、パールハーバーで何が起こったのか、それは第2次世界大戦であると述べた。セレモニーの後で最初の祝福であると表明した。ビル・クリントンはハワイに居て、第2次世界大戦の終了をパールハーバーで祝っている。そこで、儀式後の一番最初の祝福メッセージをフランス政府から受け取ったのです。では、日本どうぞ。</p> <p>■今村修(社会党) どうも、日本から来ました。私達は…</p> <p>■オスカー・テマル どうぞ、通訳してください。 (参加者多くのから、どうして通訳なの、英語で、との声多数)</p> <p>■オスカー・テマル どうぞ、英語で。 (会場がざわつく。英語で話して、などの声続く)</p> <p>■オスカー・テマル 通訳の彼女がフランス語を話します。 (だめだ、英語でとの声続ける)</p> <p>■オスカー・テマル 英語でお願いします。誰か英語でできませんか。彼ができますか。あなたが通訳しますか、わかりました。日本の発言を後に回します。それでは、その女性にマイクを回します。</p> <p>■(不詳) 私はヨーロッパ議会の議員です。私は、自国アイルランドの議員代表としてだけでなく、ここにいる他の多くのヨーロッパ議会議員同様に、指摘したい重要なことはフランスもヨーロッパ連合の一員であるということです。ですから、私達はヨーロッパ議会とヨーロッパ議員であることを活用できます。フランスに対しては、フランス一国だけで核実験を開始する決定をすることはできないことを知ら</p>	<p>せなければなりません。なぜなら、フランスは他のヨーロッパ諸国と多くの条約を締結しています。特に、北欧諸国、アイルランド、オーストリア、オランダは、今回の核実験に反対することを前の水曜日の委員会で表明しています。本日の緊急会議でネットワークを作ることに賛成し、アメリカ代表団の提案動議を支持します。</p> <p>■オスカー・テマル 次に、デンマーク。その次は、ニュージーランドです。</p> <p>■(不詳) 私は、今こうして世界各地からの議員が参加していることは大変に素晴らしいことであると思います。組織がすでにあったにしても、それが実際には世界的組織ではなかったことは明らかであります。ですから、本日世界各地から参加した議員が核実験と核兵器、核兵器産業に反対する組織を結成することは象徴的であり、大変に重要です。</p> <p>しかしながら、非核地帯は困難であるように思います。世界的にはなっていませんし、日本でできなく、ヨーロッパやアメリカ、ロシアでもできていません。ただ、オーストラリアとニュージーランドでできているだけです。そこで、レベルを下げても世界的な議員組織をつくることが重要です。</p> <p>もし、出来なければ、第3の選択として、決定せずにファックスでのやりとりで決定できないでしょうか。 (組織は作るべきだ、議長もいなくてはならない、との声)</p> <p>■オスカー・テマル 次はニュージーランドからの女性議員です。</p> <p>■スザン・シンクレア キオラ・ティナクトゥカトゥ。</p> <p>皆さん、ようこそいらっしゃいました。私は、ニュージーランド労働党議員のスザン・シンクレアです。ここにニュージーランドから私を含めて多くの議員が参加しています。</p> <p>およそ50年間、核保有国が南太平洋の実験場で多くの核実験を行なってきました。これまで30年間、ニュージーランドは核実験に反対し、核兵器そのものにも反対する運動を続け、今日大きな広がりを持つ運動になっています。これまでの立法措置においても、労働党によるニュージーランド非核法は大きな成果であります。さらに南太平洋非核地帯条約も大変重要な段階にきています。この南太平洋地域での構成員では一ヶ所だけが反対しており、それはフランスであります。私達は30年間にわたり話し合いを続けてきました。</p> <p>そして今日、世界中から議員が集まり核兵器を廃絶するための国際議員組織を結成することになりました。私達はそれを支持します。</p> <p>ニュージーランドの人々は核実験に反</p>	<p>対する一線にいます。そして、今ムルロア環礁でグリンピース運動に加わり逮捕されたり、船が破壊されたり、送還されたりしています。仲間のニュージーランド議員達がムルロア環礁でトゥイ号に乗り込んで船から抗議の演説をしています。</p> <p>もう多くの議員や友人たちにとって別の仕事に行かなければならない時間になっています。結論を急ぎましょう。アメリカからの代表が第一の提案をしています。ニュージーランドは、時間が無いので議論を止めて次に進もうという第二の提案をします。</p> <p>(拍手)</p> <p>■オスカー・テマル どうもありがとうございます。大変力強い提案でした。できたら今のスピーチのコピーをこちらの女性議員にいただけませんか。彼女には、今日の会議の書記になってもらったらと思いますが、どうでしょう。(ノー、いらないの声) 私達に書記が必要ですよ。</p> <p>■(アメリカ) 議長、再度提案します。フランス緑の党の女性をこの会議の議長に、あなたオスカー・テマル氏が副議長、そして日本代表を第二副議長にし、そして会議議長に今日討議すべき議事の進行を任せましょう。あなたが、議長に推薦した優しい女性には謝ります。</p> <p>■オスカー・テマル それでは次に、マイクを日本からの代表団に渡します。</p> <p>■笠井亮(共産党) 私達は、ここに5名の日本代表が参加しています。最初に、参加している皆さんに強い連帯を表明します。今日はフランスの核実験に反対して私達の多くが初めて集まった国際的な会議であり、どのようにして政治的な取り組みをするかということを討議することは大変重要なことです。</p> <p>もちろん、多くの国際組織がありますが、ここで議員の国際組織について討議することは大変重要なことです。そして、討議すべきことはどのようにして、いかにすべての核実験に反対し、すべての核兵器を廃絶していくかということについて協力関係を作り上げるかということです。お互いがどのように連絡しあうかも討議すべきであり、最後に強調したいことは、私達は急いで組織づくりをすべきということです。それはここで討議されます。そして、電話やファックスで互いが意見を交換しあうか国際連絡網をつくるかということです。</p> <p>ここには各国から代表団が参加しており、それぞれが国に持ち帰って討議して拡げていくことができます。日本も他の議員とともに討議してこの国際組織に加わっていきたい。</p> <p>■オスカー・テマル ありがとうございます。次にドイツの代表どうぞ。</p>
---	--	--

<p>■(ドイツ) 私は、アメリカ代表の提案を強く支持したい。なぜなら私達は少なくとも討議のために基本的な構成担当者を必要としており、討議を通して何らかの結果を得るためにです。提案されたことには微妙な問題もあり、実際的な提案として、討議は短くして直ちに構成担当者を決めるよう提案します。</p> <p>(会場からフランスからの代表は来るのかとの声)</p> <p>■オスカー・テマル 彼女(フランスからの代表)は来ることになっています。</p> <p>■(デンマーク) アメリカ代表に言いたいのですが、物事を押し進めないでもらいたい。私は、何を討議すべきかについて一枚の紙も見ていない。私は、核兵器に反対する議員連盟を作ろうとしていることは知っています。しかし、その事についてまだ何も見ていないのです。押し進めないで下さい。議長と副議長の提案がありましたが、どこにフランス代表がいるのですか。ここに来ていますか。</p> <p>(会場から女性の声、彼女は20分前にここに着くはずでした。しかし、北京会議の関係で遅れていると思われます。)</p> <p>■オスカー・テマル 誰でも発言できます。続けます。どうぞ、オランダの女性にマイクを渡してください。</p> <p>■(オランダ) ありがとうございます。会議のために良い役員構成を作ることは大事です。しかし、フランス代表の女性を待つだけでは良い解決にはなりません。</p> <p>私は、他の重要な点について話したいと思います。核実験に反対するために世界的なネットワークをつくる提案を支持します。オーストラリアの方からは原子力発電にも反対するべきだとの提案がありましたが、しかし、多くのことを盛り込みよし、私達がなぜ今ここにいるのかということを重視していくべきだと思います。私が重要と思うもう一つの事は、自治権の問題です。国際連合もすべての人々は自治権があると定めています。私はどのように国連の場でこちらの人々についてどのような支援ができるかについても討議すべきだと思います。</p> <p>■オスカー・テマル ありがとうございます。オーストラリアどうぞ。</p> <p>■スピッツ・グラタン オーストラリア民主党の議員です。私は、アメリカ代表の提案を修正して、オスカー・テマル氏をこの会議の議長にするよう提案します。</p> <p>■(アメリカ) 異議はありません。今の提案に反対の方はいませんか。</p> <p>(会場の声、このことに一時間も費やしています。)</p> <p>■オスカー・テマル 大多数の賛成です。私が議長を務めます。</p> <p>■(アメリカ) おめでとう。オスカー・テマルさん、あなたが議長です。</p> <p>■オスカー・テマル オーストラリアからの提案を3、4分でどうぞ。</p> <p>■(オーストラリア) 見出し、提案、幾つかの討議すべき項目を述べます。私は、非核世界のための国際議員連盟は議員のネットワークと共同した取り組みのための持続的な組織であり、情報を交換し、行動を計画し、適宜に会議を開催し、核実験を廃止し核兵器を解体することを主な目的とする IPU(国際議会同盟)を含む議員組織として、各国の議会で主体的に取り組む。もう一つの目的として、核実験に関連している地域の人々と連帯し支援することを表明する。具体的には討議が必要である。</p> <p>■(アメリカ) この委員会の名称を、ただ今のオーストラリア代表の提案のとおり、「非核世界のための国際議員連盟」とすることを提案します。</p> <p>■オスカー・テマル オーストラリア代表は、提案をもう一度読んで下さい。すみませんが、ここにコピーがないものですから。ゆっくり読んでください。</p> <p>■(オーストラリア) 「非核世界のための国際議員連盟」</p> <p>■オスカー・テマル 非核世界(nuclear free world)ですか？</p> <p>(会場から「非核兵器」ではとの声)</p> <p>■(オーストラリア) タイトルを訂正します。「非核兵器世界のための国際議員連盟」です。(再度、組織の目的がゆっくり述べられる)</p> <p>■ライム・アームストロング オーストラリアのタスマニア州議会議員です。タイトルが変わり、原則にも実際的にも原子力産業への関わりが薄くなります、もっと討議することが必要ではないかと思います。</p> <p>■オスカー・テマル 次に先ほどから発言を求めていた女性にマイクを渡してください。</p> <p>■ディー・マーガレット 西部オーストラリアの連邦上院議員です。他の緊急な地域についての取り組みについても目的に含めるために話したいと思います。</p> <p>今日は、世界各地から議員が参加するという極めてユニークな機会です。皆さんも知っているように今北京で国際女性会議が開催されています。中国では人々が新疆区の弱い人々を助けることは大変困難です。人々は新疆の人々に起こっていることを知りません。それは社会的正義に関する事であり、先住民に関する事であり、そして同時に核実験が行なわれ、北京会議後にも行なわれるかもしれません。ですから、それに対して何らかの緊急の取り組みが求められています。すでに、新疆では大気圏内実験を含めて43回の核実験が行なわれています。中央アジアの人々は、周囲の人々と支援をしていると</p>

<p>■オスカー・テマル 反対の方はいませんか。(全会一致の声。)</p> <p>■オスカー・テマル 全会一致です。(「ウォー」など、歓声と拍手。)</p> <p>■オスカー・テマル どうぞ、発言して下さい。</p> <p>■エドリン・モース オーストラリアからの参加です。私達は、できるだけ早く合意して組織体制を作らなければならないと思います。なぜなら、私達はやがて去らねばなりませんし、どうなったのだろうかと思いながら去るということにはしたくありません。さらにネットワークのために各国に協力できる代表者をおいて連絡網を作る必要があります。それぞれの国の代表者が誰であるかを知れば委員会を効果的に周知させることができます。その事は事務局の背後で有効に機能します。日本の誰かと緑の党のオスカー・ワードが副代表を務め、手続きを早めることとしたらどうでしょう。ここで代表を決めるることは難しいと思います。私達は基本的に合意しており、次の段階は手続きの問題だけだと思います。</p> <p>■フランカ・アレナ 議長、あなたの許しを得てオーストラリアを連絡代表としてブルース・チャールズ上院議員を推薦します。どうか各国も連絡代表者を推薦して下さい、私は、国に帰国後にそれぞの代表者にファックスしたいと思います。連絡代表者を置くことはとても重要なことです。</p> <p>■(オーストラリア議員) 紙を回して皆が住所氏名と電話番号を書いたらどうでしょう。</p> <p>■フランカ・アレナ 私達は、ここにいる全員の連絡先を知っています。みんなが私達にコンタクトしてきたわけですから。皆知っています。それを求めてるのはあなただけです。あなただけが、オスカー・テマル氏に直接に連絡して来たのです。</p> <p>■(オーストラリア議員) わかりました、それを尊重しますが、紙を準備し回しますので連絡先を書いていただきたいと思います。よろしいでしょうか。</p> <p>■フランカ・アレナ どうぞ、そうして下さい。</p> <p>■オスカー・テマル ネルソン、どうぞ。名前と連絡先の資料を回します、多くはすでに知っていると思います。</p> <p>私達は、組織については合意しました。引き続き提案があります。</p> <p>■(不詳) 「核兵器のない世界をめざす国際議員連盟」の議長に、オスカー・テマル、第一副議長にフランス、第二副議長に日本を提案します。</p> <p>■オスカー・テマル 賛成ですか。(会場からノー、ノーの声)</p> <p>■ヴォルフガング・シュミット 最初の質問は、誰がこの組織を運営するのかという</p>	<p>ことです。誰が運営を担当するのが適当なのか。私は、事務局長ではないと思います。私の提案は、議長が運営するべきであるということです。そして、重要なポイントは組織の文書配布や連絡です。ふさわしい技術備品によって行なわれなければなりません。私達は、なにも野心を持って言っているではありません。また、誰でなければというものでもありません。しかし、このことは議長の役割として中心的なことであり、新しい組織のために必要な装置を備えているかどうかを明らかにしてもらう必要があります。</p> <p>■(女性) 私も、今の発言に賛成します。連絡を取りあえる機器が備わっているかということは、極めて重要なことです。</p> <p>■オスカー・テマル もちろん、そのような機器を備えています。ここにではなく、ファアア市にあります。ここは、歴史的な場所として会議の会場に選ばれたのです。ここに機器が無いことは、すまなく思います。</p> <p>■(不詳) それはとても重要であり、私がここに参加したのもその記事が魅力的だったからです。実務的なことですが大事なことです。グループを守ってくれている政府の機器や国連とIPUに行く機会を活用することもできます。</p> <p>ですから主要国の中から出ることが適当です。例えば環太平洋の日本やオーストラリア、ニュージーランドからです。提案としては、ブルース・チャールズ上院議員を提案します。</p> <p>■オスカー・テマル 討論に入ります。</p> <p>■フランカ・アレナ デンマークの派遣団は多くの期待をこめながら、私にやる意志はないかと聞いてきましたが、私は断りました。理由は簡単です。私はオーストラリアで議会を間違えました。というのはファックスや国際電話をする度に、私はそれを自費で支払わなければなりません。それで、そのことが大変な負担になってしまいました。それで私は、組織作りのための連絡をチャールズ連邦議員の事務所を通して行なうことになりました。連邦議員は、そのような費用はすべて無料だからです。そのことは、大変重要です。なぜなら、ファックスや国際電話の費用は恐ろしく高額なのです。だから私は辞退したのです。率直に言いますが、もしオスカーに議長をやってもらうとしても、通信設備の事を知ることも大事ですが、予算も限られていることを知っておかなければなりません。このことは考慮すべき重要なことです。</p> <p>■オスカー・テマル 私の立場からも、一人だけで国際議員連盟の議長を引き受けたいとは思いません。でも、他の人と一緒にやれるのならやっても良いと思います。</p> <p>■(アメリカ) アメリカ代表として直前の</p>	<p>提案を支持し、あなたを「核兵器のない世界をめざす議員連盟」の議長にし、あなたとタヒチの人々を支援し、あなたが設備や資料などを持っていないことを考慮し、ここタヒチで核実験が行なわれていることを組織的に支援したい。</p> <p>ですから、オスカー・テマル氏を議長に、彼を支える副議長にアメリカ代表とフランス代表と日本代表をあてるごとを提案します。</p> <p>■(不詳) 私も、同様に支持します。私は西太平洋の組織に関わってきました。この地域の国々が支援することは大切です。しかし、議長と事務局について話合いの用意があります。なにが一番現実的な事なのかを考えましょう。どのように事務局が議長を助けることができるのかが問題です。機器装置のことはそれだけのことには過ぎません。私はオスカーを議長にすることを支持します。</p> <p>■(不詳) 私も、オスカーを議長にすることを支持します。そして、オーストラリアや日本が、環太平洋の一員として助けるよう提案します。主要国家という考えに異議を唱えたいのです。なぜ主要国家のフランスが議長になることは良くて、ポリネシアがなることはいけないのですか。</p> <p>■(ニュージーランド) ニュージーランドは、アメリカの提案を強く支持します。なぜなら、南太平洋において核実験が行なわれているのです。</p> <p>■(不詳) 私もオスカーを議長にすることを支持します。同時に誰かが、副議長か事務局長として支援していくことも必要です。</p> <p>■(不詳) 二つの事を話したい。思い出してもらいたいのは、中国やアメリカは核大国であるということです。それに比べればフランスは、極めて小さい国でしかありません。危険な五つの国があるのです。今フランスが実験を開始しようとしていますが、一方中国は開始しました。このことを同一視しないで下さい。私は、このネットワークの議長は非常に重要な役割であり、議長国は政治的にも世界に影響力があるほうがよいと思うのです。ですから、オスカーさんに栄誉を与えないためではなく、日本が最初の議長を務めるよう提案します。</p> <p>日本は、国際的な国であり、同時に中国の隣国であると共に太平洋国家であるからです。もう一つは、議長と事務局長は、違う国との間で連絡し合わなければなりません。最初の段階は、事務局はなくてもいいのではないかでしょうか。</p> <p>■(オーストラリア州議員) オーストラリアのビクトリア州議会議員です。最初の議長についてこの地域の先住民を代表するタヒチから選ぶことを支持します。</p> <p>将来、議長や副議長を世界中から選ぶに</p>
---	--	---

<p>しても、今回私達はタヒチで話しているのです。</p> <p>■笠井亮 私は、最初に日本の議会が核実験反対の決議をしたことを世界に対して話したいと思います。誰を議長や副議長、事務局長にするかということで、皆さんが日本に期待をかけていることは、原爆を落とされた国として良くわからります。しかしながら、率直に言わせてもらえば、私達5名は議長や副議長を引き受けることについて、他の議員の委任を受けてきているわけではないのです。まず、私達がしなければならないことは、他の議員に持ち帰り検討することなのです。</p> <p>■(不詳) 私達は、誰か3名を組織をスタートさせるために決めなければなりません。明日はどうなるかわからないので、力強い提案のあるオーストラリアや日本によってスタートさせて1年後に再度、話し合いましょう。</p> <p>■(アメリカ) オーストラリアのチャールズ上院議員を組織の事務局長にすることを提案します。</p> <p>■(デンマーク) 私は、日本の提案に賛成します。私達は、この会議でこれ以上進めそうにありません。今日の参加者から一人か二人のネットワークの連絡担当者を決めて、一年後に再度話し合いましょう。私は、主要国から議長がすることは大事なことだと思います。一人か二人の連絡担当者を決めるだけにして、それぞれの議会に持ち帰って討議してもらいましょう。私達は、組織の役員を決めることについて委任を受けていないのです。私達は、出身政党で討議をしてから委任を受けて決めたいのです。今は、誰を議長にするかについて投票できません。</p> <p>ネットワークのための二人の代表については、オーストラリアと日本から出してもらうよう提案します。</p> <p>■(不詳) あなたの提案は、とにかく一つの国を避けるためのような気がする。このネットワーク組織は、そもそも政党を結びつけるためのものではありません。長い間、この地域の問題は放っておかれた</p>	<p>のです。それを打開するために今回のネットワークをつくろうとしているのです。</p> <p>■オスカー・テマル 関連する質問はありませんか。提案を投票にしていいですか。</p> <p>■(アメリカ) アメリカ代表の提案としてオーストラリアのチャールズ連邦上院議員を当面、私達のネットワーク組織である「核兵器のない世界をめざす議員連盟」の事務局長に選任することを提案します。</p> <p>■オスカー・テマル 1年間ですね。多くが賛成です。チャールズが事務局長です。全会一致にしていいですか。(ノー、ノーの声)</p> <p>■(アメリカ) アメリカ代表の提案として、この一年間オスカー・テマル氏をこのネットワーク組織の議長に、フランス代表と日本代表を副議長にすることを提案します。</p> <p>■(日本) 日本としては、議長も副議長も引き受けられません。私達は受けの準備ができていません。(どうして、どうして出来ないの、などの声)</p> <p>■(不詳) 私はこの提案に賛成ですが、賛成するための準備ができていない所もあるので、全会一致にはできないと思います。投票にしたらどうでしょうか。</p> <p>■フランカ・アレナ 私達は、調整会議を置いて六ヶ月以内をメドに連絡を取り合って行くことはできないでしょうか。</p> <p>■(アメリカ) 議長、私は提案を変更します。オスカー・テマル氏を議長に、オーストラリアのブルース・チャールズ氏を事務局長にするよう提案します。</p> <p>■オスカー・テマル 投票していいですか。</p> <p>■フランカ・アレナ オスカー、あなたが議員であることを知らない人もいます。説明して下さい。</p> <p>■オスカー・テマル 地方(仏領ポリネシア)議会の議員であり、同時にタヒチ最大の都市ファアア市の市長です。</p> <p>■フランカ・アレナ 提案を再度してくれませんか。</p> <p>■(アメリカ) 私は、オスカー・テマル氏をネットワーク組織である「核兵器のない世</p>	<p>界をめざす国際議員連盟」の議長に一年間するよう提案します。</p> <p>■(アメリカ) 賛成ですか。反対の人は、賛成多数ですから、正式にオスカー・テマル氏を議長にします。(拍手)</p> <p>■オスカー・テマル ありがとうございます。すでにチャールズ事務局長は選任されていますが、第一副議長はどうしますか。(決めなくて良いとの声)</p> <p>■ジョン・カーリフ ニュージーランドからです。何名かの人が貴方に議長にすることに賛成しなかったのは、二つの理由があると思います。一つは議会の関係でIPUに属していないということ、二つ目は、貴方が現地の反核運動に属していることで、議長の職務に影響がでないかということです。</p> <p>私達の目的は、反核であるということ、国内問題や人々の問題についてではないということです。第一の件について、私達は必要な時にIPUにあなたを招いてスピーチをさせることができます。その他の会議においても、副議長その他を通じて話すことができるでしょう。第二の点ですが、私達がここに集まっているのは、核に反対し、核実験に反対するためです。私達は、あなたがこの地域の人々の問題を抱えていることを知っています。私達、それでは内部においてあなたを支援していくこともできます。フランスの植民地の問題と核実験の問題がここでは分離出来ないものであることは理解していますが、二つのことを分けてもらわなければなりません。しなければならない事は、議会議員の反核組織を作ることです。あなたが、もう一方のことをすることはかまいませんが、議長として発言するときには二つのことを分けてもらいたいのです。(拍手)</p> <p>■オスカー・テマル 再度、申し上げますが、私は地方議会議員です。結論はとてもはっきりしています。議長として植民地反対や独立の言葉を使わないということを私は気をつけていきます。(拍手)</p> <p>(文責、伊波洋一)</p>
--	--	---

(10ページからつづく)

から仏を外す。核実験強行への反対世論への配慮。

- 10月16日 GP、仏ルモンド紙に意見広告。この中で、同団体の反核行動支持のワイン製造社など、仏国内の37業者名を公表。
- 10月16日 大阪市で開会の「アジア・太平洋学生会議」閉幕。「核実験停止を求めるアピール」を報告書に盛り込み、シンガポールのAPEC事務局へ送付。
- 10月16日 「東京コンドルタクシー」など3社、核実験抗議のステッカーを245台の全営業車と680人の社員の自家用車に貼る。
- 10月17日 中南米諸国と旧宗主国約21ヶ国代表による第5回イペロ・アメリカ首脳会議、仏中の名指し避けながら核実験を非難。
- 10月17日 GP、仏海軍に拿捕された抗議船の返還と損害賠償100万ドルを求め、仏政府をロ

ス連邦地裁に提訴。

- 10月17日 GPの新たな核実験抗議船「カラシバ」号、ムルロア海域に向けタヒチを出港。民間の抗議ヨット「ジョア」号も同行。
- 10月18日 フィジーのボレ外相、駐フィジー仏大使の一時召還を仏側に提案。仏大使の安全確保が理由。
- 10月18日 欧州委員会報道官、仏が地下核実験の安全性と環境問題に関する情報を同委員会に提出と発表。情報が十分かどうかは言及せず。
- 10月18日 露エリツィン大統領、仏テレビ中継番組で仏核実験問題に触れ、「核兵器保有國のあらゆる種類の核実験に反対」と表明。
- 10月18日 日仏両国の社会党、仏核実験中止を求める共同声明発表。
- 10月18日 米政府当局者、米英仏3ヶ国、南太平洋非核地帯条約の3つの議定書に仏の一連の

核実験終了後調印検討中と発表。

- 10月19日 訪仏中の平岡広島市長と伊藤長崎市長、日仏友好議員グループのオティエ議員を訪問、核実験中止申し入れ。
- 10月19日 連合・芦田会長、来月21日に仏核実験強行に抗議。核兵器廃絶を求める10,000人規模の集会を都内で開催と発表。
- 10月19日 反核・反戦芸術家として広く知られた日本画家、丸木位里氏死去。享年94歳。
- 10月20日 「世界法廷運動日本センター」と日本生協連、同運動への賛同署名300万人越えたと発表。30日開廷の口頭陳述に合わせ提出予定。
- 10月20日 広島の放射線影響研究所、被爆の影響が歯のエナメル質に残るのを利用した原爆被爆者の被爆線量分析研究中。

◇◇◆◇◇

あと1回の爆発で

ムルロアが再び噴火の可能性

1975年以降にポリネシアのムルロア環礁で行なわれた核実験はすべて地下核実験であった。放射性廃棄物は、空中に飛散する代わりに、今も環礁内に閉じ込められている。ムルロアでの138回の地下核爆発によって、138個の核廃物の「貯蔵物」が生み出され、水深500~1,100メートルの深さに眠っている。

この膨大な放射性廃棄物の蓄積が、まとまったままの形で外部の環境から完全に切り離された状態を保てるだろうか。フランス政府は地下核実験は海も大気も汚染しないと答え続けてきた。

ジャック・シラク大統領は、ポリネシアでの核実験を再開するという決定を発表した時もこの考え方を採用し、実験は「絶対に環境への影響を残さない」と述べた。彼の楽観論はムルロアでの放射能レベルは低いと結論づけたいくつかの報告書に基づくものである。

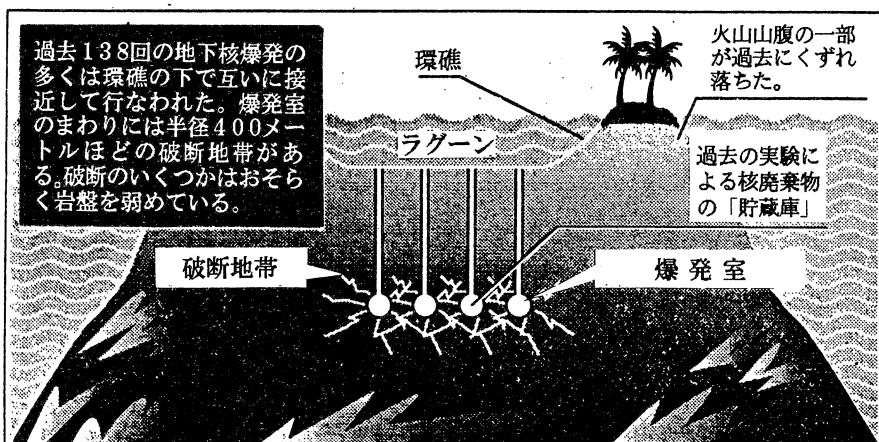
しばしば報告者たち自身が表明してきたこれらの報告書の結論についての疑問を別にしても、問題は、私たちが、公式の専門家たちが今しているように、これらの報告書の結果に基づいて実験の再開に危険はないと結論づけてよいかということである。もちろん、否、である。

時間の経過と共に、あるいは爆発が重ねて行なわれることによって破断が増し、地層を開いて放射性元素が少しづつ海中や大気中に移動する可能性は度々喚起されてきた。これはきわめて現実的な危険であるが、環礁の地形学上の大きな変化をともなうことを意味しない。

一方、地層が実験の過程で突然開く可能性、これは島の側面が海にくずれ落ちた時に起こることであるが、これにはあまり注意が払われてこなかった。しかし、最近の火山、とりわけムルロアのような島火山の不安定化に関するデータは、こうしたシナリオも考えに入れておく必要があることを示している。

環礁の基底部は海底に載っている。その側面は急な傾斜になっており、海面から200メートル位まではほとんど垂直である。大量の水が周囲を流れるによって島火山を形成している物質が風化にさらされる。この風化の程度が時とともに増し、その結果、物質の凝集力が低下する。

北西および南側の海岸線にあるくぼみから、ムルロアが活火山であった時期に少なくとも二度、山腹の一部がくずれ落ちたことはまちがいないと考えられる。



南側の方はくずれ落ちた部分の幅が5キロで深さが2,000メートルであったことから、どの位の規模であったのか想像できる。これらの観察から、ムルロア火山は不安定になりやすい内部構造を持っていることがよく読みとれる。

火山の突然の不安定化が最初に観測され理解されたのは、1980年5月8日、アメリカのセント・ヘレンズ山が噴火した時であった。その日、火山北側の山腹3立方キロメートルが壊れ、頂上から25キロメートルにわたって流れ下った。火山の頭の部分はなくなっていた。

過去15年間にわたってこの問題を調査した結果、これは進化のある段階に達した火山の場合に、しばしば起こる正常な現象であることがわかった。

火山の不安定化を起こりやすくする主要因は、側面が急勾配になっていることを別にすれば、第1には破断、第2には風化である。ムルロア火山の上部の破断は主に、同火山が被ってきた138回の地下核爆発の結果である。1回の爆発ごとに、爆発による空洞ができ、その回りに空洞のおよそ5倍以上の破断地帯があり、空洞から上方へ向かって岩石の崩落部分が空洞の直径の3~5倍の長さで線状に伸びている。

1981年まで、爆発はすべて環状サンゴ礁の下で行なわれた。環礁の大きさが小さいことは、爆発坑と爆発坑の間が非常に狭いことを意味していた。空洞を囲む破断網が互いにつながり、もしそ中の一つが外の環境中に開くと他のすべての破断からも放射性元素が流れ出すことは避けられないと思われる。

今確認すべきことは、今後の爆発で生み出されたエネルギーが環状サンゴ礁の一部を不安定化する可能性があるのか、それとも火山の山腹全部まで不安定に

するのかということである。

核爆発においては、爆発力は巨大な隕石が地球にぶつかった時を除いては自然界には存在しないような圧力を空洞の側面に及ぼし、エネルギーは1秒とかからずに放出される。

それによる衝撃波は、周辺の物質を気化もしくは溶融させ、空洞を越えて破断を走らせ、火山構造から出たときには、海を沸騰させる。衝撃波とともに起る地震が構造を弱め、表面近くでの大きな爆発の場合には表面を損傷するかもしれない。この機械的エネルギーは、火山がその活動期に持ち得たであろうどんなエネルギーよりもはるかに大きいことは確実だと思われる。

現在わかっている火山の不安定化につながるすべての要素、すなわち物質の激しい風化と破断、急勾配が今ムルロアに存在するのである。

今計画されている中の一つの爆発によって生み出される衝撃波は、たとえ爆発がラグーン(礁湖)の下で行なわれたとしても、以前の爆発で穴が開いている大きな塊を引き裂いてしまうのに十分な大きさであり得るのである。この状況は、「危険が高い」としか言いようのないものである。

このような不安定化の直後に放射性の「貯蔵物」の一部が突然海中へ流れ出し、高潮あるいは津波を発生させ、ムルロアの人々だけでなく、近隣の群島の人々の命を脅かすであろう。

問題のこの危険な側面について、実験再開の決定の前に、シラクが聞かされていたとは考えられない。

(ピエール・ヴァンサン氏は、クレルモン・フェランにあるブレーズ・パスカル大学の名誉教授であり、また火山学研究センターのメンバーである。)

日誌

1995.10.3~10.20

GP=グリーンピース (作成:笠本丘生)
NZ=ニュージーランド/NSW=ニュー・サウス・ウェルズ/KEDO=朝鮮半島エネルギー開発機構/PNG=パプア・ニューギニア

- 10月3日 ムルロア環礁を調査した1980年6月の仏軍の秘密報告書に、同環礁の亀裂を記す地図。亀裂は計8本。最長8,500m。調査後、セメントで埋設。仏ルモンド紙報道。仏国防省は否定声明。
- 10月3日 世界の記念切手販売する日英郵趣協会、NZ郵便局発行の「反核切手」の販売開始。世界初の反核キャンペーン切手。
- 10月3日 冷戦時代の放射能人体実験調査中の米大統領諮問委員会、一部に倫理的問題あると政府の責任認め、被験者への補償と謝罪求める最終報告まとめ。実験の被害者団体、「補償対象が限定されすぎ」と反発。
- 10月3日 米国防省、セミパラチンスクにある世界最大の地下核実験場の実験坑186ヶ所封鎖でカザフ政府と合意と発表。
- 10月3日 仏の第2回核実験後、ペペーで初の抗議デモ。「テ・タータ・タヒチ・ティアマ(タヒチ人の自由)」のメンバーら約50人。
- 10月3日 在フィジーの仏大使、南太平洋諸国会議の対話国排除に対し、深い遺憾の意を表明。域内国との2国間関係は維持する方針。
- 10月3日 仏政府、タヒチでの核実験抗議デモ参加予定のNZの女性グループらのチャーター便の仏領ボリネシア入りを拒否。「トラブル誘発の恐れ」が理由。
- 10月3日 所信表明演説に対する各党の代表質問の中で村山首相、「米国との核抑止力のもとで自国の安全確保の必要」と述べる。
- 10月3日 社さ両党首脳、仏核実験に対する与党3党抗議団を仏へ派遣で合意。
- 10月3日 東京都・青島知事、仏核実験に抗議するシラク大統領宛の親書を大使館に郵送。
- 10月3日 連合宮崎、仏核実験に反対する意見広告を仏ル・モンド紙に掲載のため、同県民にカンパを呼びかける運動の開始を発表。
- 10月4日 GPの新たな抗議船「NZメイド」、ムルロア海域へ向けてペペー出航。
- 10月4日 米議会のアジア太平洋議員団、仏核実験に抗議、11月3日の米仏首脳会談でシラク大統領に核実験中止を働きかけるため、クリントン大統領に同議員団との協議を申し入れ。
- 10月4日 EUの欧州委員会全体会合で、安全性に関する情報提供不十分のまま核実験強行した仏に関し、原子力共同体条約への適法性を討議。結論は11日の全体会合に持ち越し。
- 10月4日 米軍備管理・軍縮局のグレアム軍縮担当大使、後発核保有国への米核実験データ供与を検討中と表明。
- 10月4日 チリ、ペルー、コロンビア、エクアドルの南米4ヶ国、ペルー・リマで、2度目の仏核実験に非難声明発表。

- 10月4日 連立与党、仏核実験抗議のため、3党代表団の仏派遣を決定。
- 10月4日 仏独合弁会社製消防ヘリについて社会党名古屋市議団、本会議での購入反対を決定。
- 10月5日 ペペーの仏領ボリネシア領土議会、仏核実験の是非についての討議を開始。正式議題に取り上げたのは初めて。
- 10月5日 タヒチ島ファアア市で、2度目の仏核実験後最大の反核・独立デモ。オスカー・テマル同市長主催、約500人参加。
- 10月5日 仏核実験抗議与党代表団のメンバー内定。各党2人ずつ。自民党は水野清元、井上吉夫、社会党は千葉景子、五島正規、新党さきがけは田中秀征と築瀬進の各氏。ウーブリュー駐日仏大使代表団派遣に不快感示す。
- 10月5日 名古屋市議会建築交通消防委員会、仏独合弁会社製の消防ヘリ購入議案を可決。6日の本会議で正式に決まる見通し。
- 10月5日 幕末に横須賀製鉄所の建設指揮した仏人技師を顕彰し、横須賀市が毎年11月に行う「開設記念式典」について、駐日大使ら同国代表を招待しない方針を同市が決定。
- 10月5日 朴政権の陸軍保安司令官だった昌成議員、1978年9月に朴大統領から国防科学研究所で核兵器開発推進と聞かされたと、国防委員会で証言。国防科学研究所は全面否定。
- 10月5日 ポージョ・レ・ヌーボーの輸入量、昨年の半分に落ち込む見込み。仏核実験への消費者の反発を懸念し、小売り店が買い控え。
- 10月6日 イランのラフサンジャニ大統領、ハノイで会見。中国からの原子炉の場所や価格を今も交渉継続中と表明。米の「中国が中止表明」との発表に反論。
- 10月6日 GP、メキシコ訪問中の李鵬・中国首相に対し、メキシコ市内の市庁舎前で座り込みなどの核実験抗議行動。
- 10月6日 名古屋市、仏独合弁会社製の消防ヘリ購入を正式決定。
- 10月7日 さきがけ北海道の札幌支部連合会、市中心部で仏核実験に抗議する署名運動とデモ行進。鳩山・荒井両衆院議員ら20人参加。
- 10月7日 韓国の科学技術庁、黄海上の掘業(クロップ)島に計画中の放射性廃棄物管理施設建設再検討を発表。活断層の可能性のため。
- 10月7日 仏核実験に抗議し、仏製乗用車の所有者らが都内を約100台の車でデモ行進。
- 10月8日 核実験抗議のTシャツ着てパリに社会見学に訪れたデンマークの中学生25人、仏警察当局に強制的にTシャツ脱がされる。
- 10月9日 仏核実験抗議のため、自・社・さ与党3党代表団、パリに向け出発。
- 10月9日 核兵器廃絶を目指す98か国・地域の407都市で構成の世界平和連帯都市市長会議、核実験即時停止求めてシラク大統領に抗議文。
- 10月9日 東京都公文書公開審査会、東京港での核燃料物質輸送に關し、荷役予定日時などの情報の非公開決定支持の答申。
- 10月9日 さいたまコープ、核実験に抗議し、仏製品の取り扱い中止を発表。中止するのは、仏製ワインとナポレオン、企画中の仏旅行。
- 10月10日 EU派遣の仏核実験安全調査団に対し、ムルロア環礁の地質情報提供を仏側拒否。GP入手の同調査団報告書に記載。シラク大統領、マドリードで「全く根拠のない指摘」と反論。
- 10月11日 欧州委員会、仏ストラスブルで全体会合。仏地下核実験の欧州原子力共同体(ユーラトム)条約への適合性討議。明確な判断は23日の臨時会合まで見送り。
- 10月11日 仏紙「ウエスト・フランス」、ムルロア環礁の珊瑚層に生じた亀裂とする海中写真を掲載。亀裂は「幅3m~3.5m、長さ数kmの、断続的な縦の亀裂」。
- 10月11日 マレーシア与党、統一マレー国民組織、仏核実験抗議の超党派の集会を24日にクアランプールで開催と発表。
- 10月11日 首相特使として国連に派遣された波多野・前国連大使、多数国の賛成得るため、核実験即時中止決議案の文言調整が必要と指摘。
- 10月11日 訪仏中の自・社・さ連立与党3党代表団、レピット大統領府外交顧問と会談、仏核実験中止求める。
- 10月11日 豪運輸労働組合、仏核実験に抗議し、フランス航空の航空機に対し、24時間の給油禁止措置。
- 10月11日 欧州公演中の大相撲巡業団とシラク大統領との懇談会で出羽海理事長、核実験中止を強く申し入れ。
- 10月12日 仏ジスカールデスタン元大統領、仏が予定する核実験の回数に疑問を表明。仏フィガロ紙に寄稿。
- 10月12日 太平洋諸国の癌死亡率分布と、ムルロア環礁周辺での大気圈核実験の放射性降下物の流れがほぼ一致。仏NGOの報告書をPCDS入手。(本誌5号参照)
- 10月12日 米が配備する核弾頭は約9,000発、3年前の半分以下に減少。国内で核配備の州も9つ減少し16州に。米のNRDC調べ。
- 10月12日 仏中と日本の都市の姉妹都市関係調印や交流中止相次ぐ。同日までに14市町。日本の新聞社調べ。
- 10月12日付 市民団体・日本子孫基金、「核実験反対ビデオCMコンテスト」の作品募集中。作品は30秒以内。締め切りは11月20日。
- 10月13日 日本の原子力委員会専門委員、仏で開催の原子力の将来に関する国際会議で、露の核兵器解体で生じるブルトニウムの日本の原子炉への転用を提案していたことが明らかに。
- 10月13日 「パグウォッシュ会議」と同会議のロートラット会長にノーベル平和賞。
- 10月13日 ノーベル平和賞受賞のロートラット氏の再度の核実験中止要請に対し、仏ジュベ首相、「計画変更の意思なし」。中国国営新華社通信、ノーベル平和賞発表の事実のみ報道。中政府は反応なし。
- 10月13日 冷戦中、米で放射性物質の人体実験に晒された被害者の26団体、関係研究者の訴追求める書簡をクリントン大統領に提出。
- 10月13日 スペイン所蔵のピカソの「ゲルニカ」をパリに貸出すか否かでゴンザレス首相が苦悩中。核実験強行の仏への国民感情。
- 10月14日 東京の「市民によるタヒチ取材調査団」による核実験場での元労働者が爆実態調査の報告会、都内で開催。
- 10月14日 前橋市中心部の商店街が12月の歳末セールの福引抽選会の一等の海外旅行候補

(8ページへづく)

郵送による定期購読をお勧めします。月2回発行で、年間¥5,000- (6ヶ月¥2,500-) です。タイトルの下に記載した郵便振替口座でお振り込み下さい。

次の人たちがこの号の発行に参加・協力しました。

志津勝彦(平和資料協同組合)、笠本丘生(PCDS)、パティ・ウィリス(カナダ、PCDS)、照屋みどり(PCDS)、水野希代子(PCDS)、伊波洋一(沖縄、PCDS)、中田真里子(平和資料協同組合)、梅林宏道